

屋根葺替工事 Vol.1

・屋根軒先の「^{のきづけ}軒付」 2019. 4. 12

唐門の屋根は、^{ひのき}檜の皮を重ね、竹釘で留めて^ふ葺きあげる「^{ひわだぶき}檜皮葺」。檜皮は自然素材で、年月とともに痩せて溶けていくため、30～40年ごとの葺替が欠かせません。唐門の葺替は約40年ぶりです。古い檜皮材を解体した後、2月中旬より、軒先の^{のきづけ}「軒付」という部分から葺替作業が進められています。厚さ5厘(1.5mm)ほどに仕立てた檜皮を積み上げ、先端の不揃いな箇所を「ちょうな」という専用の道具で切りそろえた後、軒付の耐久性を高めるため水切銅板と少し厚い^{うわめかわ}上目皮を張ります。厚さ40cmにもなる重厚な軒付は、豪華な彫刻で飾られる唐門に、落ち着いた品格漂う雰囲気を与えます。



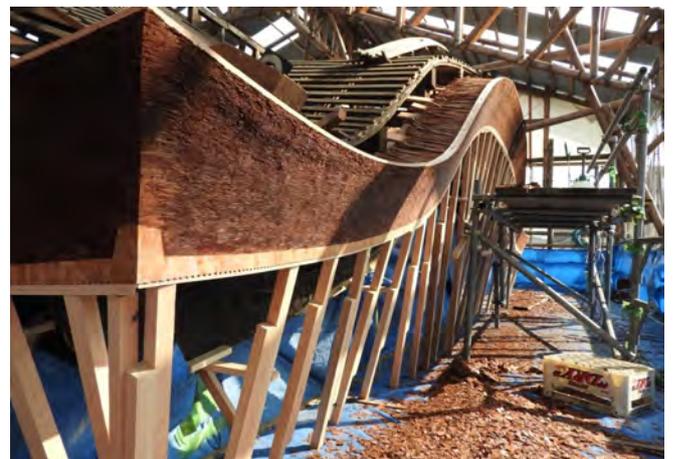
▲ 軒先に檜皮を積み重ねる



▲ 「ちょうな」で軒付の先端をそろえる



▲ 水切銅板と上目皮の取付



▲ 綺麗に切りそろえられた軒付